

きょうどうていあんじぎょう

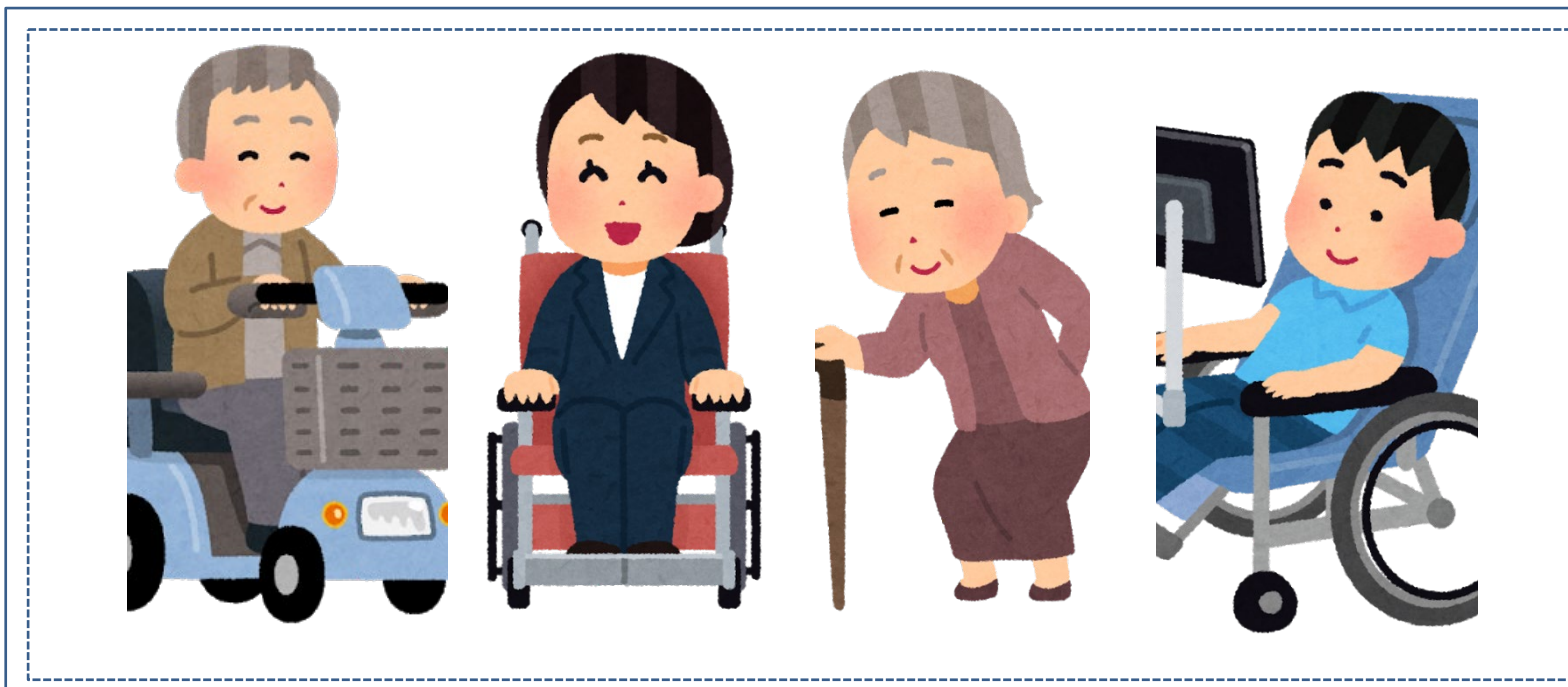
協働提案事業

しょうがいぶんや こうれいぶんや れんけい
障害分野と高齢分野の連携を
すいしん
推進することでできること

だんたいめい いっぱんしゃだんほうじん じえにー
団体名 一般社団法人 Geny

しょかにか しょうがいしゃさくか しょうがいしゃせいかつしえんか かいごほけんか
所管課 障害者施策課、 障害者生活支援課、 介護保険課

しょうがい ・ こうれいぶんや かだい
障害・高齡分野の課題



しょうがいぶんや こうれいぶんや れんけい ひつよう
障害分野と高齡分野の連携が必要

しょうがい とうじしゃ かぞく
障害当事者・ご家族にとって

かいご ほけん せいど しょうがい ふくし せいど
介護保険制度や障害福祉制度についての
知識や情報量が増えましたか？
ちしき じょうほうりょう ふえました



へんか じょうきょう おうじて つど きーびす けんとう
5) 変化する状況に応じて都度サービスを検討する
材料が増える
ざいりょう ふえる

連携が進むことで増える選択肢

パターン1

・40代の^{しょうがいしゃ}障害者 ^{さいきん}最近 ^{しんたいきのう}身体機能が^{ていか}低下してきている。

生活介護事業所で^{りはびり}リハビリを^{うけたい}受けたいと思っ^{おもって}ているが^{あき}空きがない。

⇒(高齢事業所が障害福祉制度の指定を取得した) ^{きょうせいがた}共生型^{さーびす}サービス^{じぎょうしょ}事業所で

^{うんどう}運動^{きのう}機能^{きょうか}強化の^{ぷろぐらむ}プログラムに^{さんか}参加



連携が進むことで増える選択肢

パターン2

・60代前半の障害者

就労継続支援B型しゅうろうけいぞくしえんを利用しており、収入しゅうにゅうが得られえられ やりがいも

感じかんじている。障害特有しょうがい とくゆうの支援しえんが必要ひつよう。

⇒65歳以降さい いこうも当面の間、継続して就労継続支援しゅうろう けいぞく しえんを利用りようできる。

⇒加齢かれいによる特性とくせいが強つよくなってきたら、介護保険サービスかいご ほけん さーびすに移行いこう



れんけい すすむ ふえる せんたくし 連携が進むことで増える選択肢

パターン3

しょうがいしゃ げんざいせいかつ かいご じぎょうしょ かよって さいきん
・50代の障害者、現在生活介護事業所に通っているが、最近
そうげいしゃ ぴっくあっぷ ぽいんと いく しんたいてき
送迎車のピックアップポイントまで行くのが身体的にきつくなってきた。

⇒(高齢事業所が障害福祉制度の指定を取得した) きょうせいがた さーびす じぎょうしょ
共生型サービス事業所で
いえ げんかんさき でい さーびす そうげい かのう
家の玄関先からデイサービスまで送迎が可能



連携が進むことで増える選択肢

パターン4

・60代の^{しょうがいしゃ}障害者 ^{しょうがい}障害の^{しえんないよう}支援内容に^{とくいせい}特異性があり、^{かいご ほけん}介護保険
には^{ない}無いサービスも^{ひつよう}必要。

⇒65歳を^{さい}過ぎると、^{しょうがい ふくし さーびす}障害福祉サービスと^{かいごほけん さーびす}介護保険サービスの
^{へいきゅう}併給が^{かのう}可能



連携が進むことで増える選択肢

パターン5

- ・60代前半の障害者、現在は生活介護事業所に通っているが最近**活動内容**について**いくのが大変**になってきている。

⇒**65歳になる前から** (高齢事業所が障害福祉制度の指定を取得した) **共生型**

サービス事業所と**生活介護事業所**の**両方**を利用して、徐々に

デイサービスに移行していく



れんけい すすむ りようしゃ きたい こうか
連携が進むことで利用者に期待できる効果

しょうがいしゃ こうれいしゃ
障害者・高齢者ともに

せいど ・ しさく ・ さーびす ちしき ・ じょうほうりょう ふえる
制度・施策・サービスなどの知識・情報量が増える

こべつ にーず そくした せいかつ すたいる
個別ニーズに即した生活スタイルを
えらべる
選ぶことになつがる

ひと くらす
その人らしく暮らすことができる



連携が進むことで支援者に期待できる効果

支援者は、障害者・高齢者等の

個別ニーズの把握や

制度・施策などの知識・情報量が増える



ひとり一人にあった支援内容(サービス)を提供する
一助になる



質の高い相談や支援が可能

